

# 障害者権利条約第12条の 試練と対策

平等正義イニシヤティブ  
Equity and Justice Initiative

[www.ejichina.org](http://www.ejichina.org)

[huangxuetao@ejichina.org](mailto:huangxuetao@ejichina.org)

黄雪涛 Huang Xuetao

**EQUITY &  
JUSTICE  
INITIATIVE**  
衡平机构

# 後見制度の変遷

---





- ・ **Challenges** of Legal capacity reform in Civil Code

- ・ 言語面の障害

- ・ 言説面の障害

- ・ 文化的な衝突

- ・ 政治習慣

- ・ 市民社会の発展

- ・ 法曹界こそが最大の試練

- Challenges

- 言語面の障害

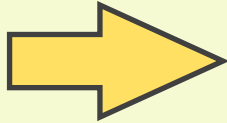
- 言説面の障害

- 文化的な衝突

- 政治習慣

- 市民社会の発展

- 法曹界こそが最大の試練

• 英語資料  中国語訳されたものはきわめて少なく、作業量が膨大

## Challenges

言語面の障害

## 言説面の障害

文化的な衝突

政治習慣

市民社会の発展

法曹界こそが最大の試練

1. 生物医学の言説が流行しているが、その背景は何か？
2. 啓蒙時代における「自由意志学説」の普及研究への批判が不足していた。
3. 哲学的言説と成人後見の周縁トピックは隔たりが大きく、関心を持つ者にまとまりがない。
4. トピック自体が複雑で哲学、法理、宗教、医学、文化、公共の安全と個人の自由、社会の福祉政策といった複数の学問分野に関係している。
5. 草の根のセルフ・アドボカシーvs民法学者は、難度が高い。
6. パラダイムの転換、トピックが広範。



- Challenges

- 言語面の障害

- 言説面の障害

- 文化的な衝突

- 政治習慣

- 市民社会の発展

- 法曹界こそが最大の試練

- 代替的意思決定モデルの後見制度は、東洋の家父長制に合法性を提供する
- 東洋の家父長制、家と国の集団主義
- 一般の成人は通常、職業、婚姻、不動産購入、ライフスタイルの選択、家族間のプライバシーや距離において、家庭からの干渉を避けがたい。
- こうした家庭関係は「東洋の家庭文化」と理解される。
- 西洋の法理とキリスト教文化の関連性は、東洋では欠落しているところがある

- **Challenges**

- 言語面の障害

- 言説面の障害

- 文化的な衝突

- **政治的慣性**

- 市民社会の発展

- 法曹界こそが最大の試練

- 行政主導——政治上の家父長制

- 民衆の「無能力推定」

- 法治、裁判官の非独立

- 市民は「不確実性」を嫌う。

- 人権＝タブー、スティグマは「西洋による政治化の陰謀」とされる。

- 「市民社会」も近年は政治的タブーとなっている。

- **Challenges**

- 言語面の障害

- 言説面の障害

- 文化的な衝突

- 政治

- **市民社会の弱さ**

- 法曹界こそが最大の試練

- ◆ 市民社会の発展は脆弱であり、大多数の人々は慈善組織に接したことがない。
- ◆ GONGO(官製NGO)——政府系協会(中国障害者連合会、中華全国婦女連合会)代弁コミュニティ
- ◆ 結社、公募の規制が厳格で、「市民社会」も近年は政治的タブーとなっている。
- ◆ 中国域外からの資金援助を敵視
- ◆ 成人後見制度に関するDPO:保護者、精神障害/知的障害
- セルフ・アドボカシー組織は成熟しておらず、政策トピックに対して難しさを感じている。
- 医学的視点/慈善福祉の視点、医学分類で自己規定し、異なる障害間の協力が少ない。境界線を引いて、スティグマを避けることに注力する。
- 保護者組織は熱心だが、保護者意識が色濃く、障害者の自治に対する共感は薄い。
- 権利への視座が欠落しており、障害者権利条約に対する認識が不足している。



## Challenges

言語面の障害

言説面の障害

文化的な衝突

政治

市民社会は弱い

法曹界こそが最大の試練

- ◆ 民法学界:大陸法系に固執し、「独、仏、日、台」しか引用しない。障害者権利条約は英米法系の概念なので概念と枠組みの整合に技術的な困難を伴う、と考えている。
- ◆ 人権条約についての研究が少なく、障害者権利条約についての研究はきわめて少ない。法学の各セクション間が全体で歩調を合わせることはなく、思い思いに振る舞っている。民法学者の精神障害についての研究は、刑法学者に比べて少ない。
- ◆ 研究と実務が乖離し、基礎理論の研究と実務の研究が乖離している
  1. 訴権の法定代理は、法曹界を司法の実践における被代理人との接触から隔離している
  2. 民法学者は保護的な制限による悪影響への認知度がきわめて低い。改革の動機が乏しい
- ◆ 立法学者:児童の権利にならい、最善の利益の原則を理想の立法方式としている。
- ◆ 「最善の利益の原則」は実例が少なく、この原則の欠陥についての理解や研究もごく限られている。
- ◆ 人権弁護士:刑事事件こそ人権事件であり、後見については意識がない—民事事件も人権事件である。

## strategies of Legal capacity reform

- EJIの戦略:
- 三大項目
- 政策の研究と提唱
  - ——意思決定支援に賛同する日本、台湾の民法学者を探し、中国の立法者に向けてキャンペーンを行う
  - ——ボランティア翻訳と宣伝
  - ——予備的な研究
- 戦略的な訴訟
  - ——人権派弁護士の参加を支援するとともに、法律改革の提唱者となる
  - ——個別事案の研究
- USPセルフ・アドボカシーの支援
  - ——高齢者組織を含め、「被後見人」のセルフ・アドボカシー組織の公共への参加を引き続き支援する。
  - ——後見人の公共への参加のため、意思決定支援の理念に賛同する「保護者組織」を支援する



# 東アジアの家父長制の合法性への挑戦

私たちは協力を必要としています！



平等正義イニシャティヴ  
Equity and Justice Initiative

[www.ejichina.org](http://www.ejichina.org)

[huangxuetao@ejichina.org](mailto:huangxuetao@ejichina.org)

黄雪涛 Huang Xuetao